

が じ ま る

2019 年

6 診療科／各部署紹介 - リハビリテーションセンター

中部徳洲会病院	☎ (098) 932-1110
ソフィアクリニック	☎ (098) 923-2110
徳洲会ハンビークリニック	☎ (098) 926-3000
与勝あやはしクリニック	☎ (098) 983-0055
よみたんクリニック	☎ (098) 958-5775
徳洲会新都心クリニック	☎ (098) 860-0755
おきなわ徳洲苑	☎ (098) 931-1215
グループホーム美ら徳	☎ (098) 931-1223
徳洲会伊良部島診療所	☎ (0980) 78-6661
宮古島徳洲会病院	☎ (0980) 73-1100
石垣島徳洲会病院	☎ (0980) 88-0123
北谷病院	☎ (098) 936-5611



リハビリテーションセンター



Organization Accredited by Joint Commission International



Japan Medical service Accreditation for International Patient



Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training

医療法人沖縄徳洲会 中部徳洲会病院 地域医療連携室広報
 所在地 〒 901-2393
 沖縄県中頭郡北中城村アワセ土地区画整理事業地内2街区1番
 ☎ (098)932-1110(代) / FAX(098)931-9595(代)
 ホームページ <http://www.cyutoku.or.jp>
 E-Mail daihyo@cyutoku.or.jp



ひとりひとりの患者様に寄り添い支援します。

リハビリテーションセンター

医師、看護師、医療社会福祉士、そして私たちセラピストが緊密に連携をとり、患者様の退院後の生活の質の向上に向け取り組んでいます

当リハビリテーションセンターは、県中部エリアでも規模の大きな施設で、急性期を中心とした早期リハビリテーションに力を入れていきます。スタッフは現在、理学療法士24名、作業療法士12名、言語聴覚士5名が、センター及び各病棟、そしてICU（集中治療室）にそれぞれ配置されています。

今日は、センターの役割について、統括する川崎達哉主任に話をうかがいました。

— センターだけでなく、病棟やICUにもセラピストを配置しているんですね。

川崎— はい。病気やケガで入院や手術をされた方に対し、退院後の社会復帰に向けて、できるだ

け身体機能を維持していただくため、きわめて早期からリハビリテーションを提供しています。

— 病棟で落ち着いてからではいけないんですか。

川崎— 速やかにリハビリテーションを開始することが、その後の機能回復に大きな効果を持つことがわかっています。また、特に高齢者の場合など、早期リハビリにより寝たきりを防ぐことが可能になります。

— リハビリのタイミングやメニューは、どのように決めるのですか。

川崎— 例えばICUでは、担当医と看護師、セラピストが早期離床チームを作り、一人ひとりの

患者様の状態を評価し、実施のタイミングやメニューを決めています。

また、各病棟ではリハビリテーション回診を行い、医師の治療方針やリハビリテーションの目標、患者様のニーズの確認、早期退院の時期検討を行っています。

私たちの役割は、退院後の生活の質の維持・向上のため、患者様が高いレベルの身体機能を維持あるいは回復できるようにすること。あわせて退



川崎達哉 主任



院後の生活に向けて地域の福祉サービスと連携し、ご家庭や地域の中で、その人らしい生活を送っていただけるように様々な支援やアドバイスをしています。

— その他の取り組みについて教えてください。

川崎— そうですね。現在、取り組んでいるものに、『心臓リハビリテーション』があります。

— 心臓リハビリですか？

川崎— 循環器病棟と連携して実施してる取り組みで、心臓疾患で退院後に通院されている患者様や狭心症などで外来受診されている患者様を対象に行っています。

日時を決めて、3〜5人の患者様に来院いただき、『集

団りハビリテーション』として運動療法を受けていただきます。これは心電図で状態を確認しながら行います。また運動療法と合わせて、食事や日ごろの運動指導なども行います。

— なぜ集団で行うのですか。

川崎— なんとといっても、患者様のメンタル面での効果が大きいですね。一人では辛くならがちな通院も、チームでならお互い励ましあいながら、続けることが出来ますから。

— ありがとうございます。

リハビリ用トレーニング機器



↑ レジスタンストレーニングマシン



◆私の仕事 - リハビリテーションセンターの主な職種をご紹介します

理学療法士：Physical Therapist という仕事 金城 理沙さん

理学療法士になろうと思ったのは、小さな頃に母が入院し、リハビリで再び歩けるようになったのを見て、こういう仕事もいいかなと思ったんです。あと、その時のセラピストの方の制服がカッコよかったこととか…。

私たち理学療法士は、ケガや病気などで身体機能に障害を負った患者様に対して、運動療法や物理療法、日常生活動作訓練などを行い、座る、立つ、歩くなどの基本的な運動能力の回復や維持、障害の悪化防止をはかる役割を担っています。

リハビリは、早ければ入院当日や手術の翌日

から『寝返りを打つ』、『起き上がる』、『立つ』などの基本動作の訓練を開始します。早期にリハビリを開始することで、退院後の生活に必要な運動機能を維持、回復することが出来るからなんです。そのためには、患者様になぜ早期リハビリが大切なのかを丁寧にご説明するだけでなく、患者様の痛みやつらさを対話を通して理解する姿勢が重要になります。



作業療法士：Occupational Therapist という仕事 - 前盛 雄志さん



作業療法士は、理学療法で運動機能がある程度、回復した患者様に対し、地域やご家庭でできるだけ自立した生活をおくっていただけるよう、作業療法を通して日常生活に必要な

応用動作の回復訓練を提供します。

作業療法とは、患者様が食事や排せつ、入浴、着替えといった日常生活動作や、レクリエー

ションや家事、買い物といった『作業』に主体的に取り組むことを通して、心身の機能回復を図る治療や訓練のことをいいます。

作業療法士の仕事の特徴は、身体機能の回復だけでなく、患者様が治療に前向きに取り組むための心理的なサポートを行うこと。患者様の心身の状態や、辛さ、悩み、治ったらこうしたいなどの気持ちを理解・共有し、その心に寄り添って支援していきます。また、作業療法を行う際には、『こういう作業をしましょう』ではなく、『この作業を一緒にやっていきましょう』というお声掛けをしています。

言語聴覚士：Speech-Language-Hearing Therapist という仕事 - 米須 幹さん



コミュニケーションも食事も、ともに生きる意欲につながる大切な機能。言語聴覚士は、『話す』、『聞く』、『食べる』、『飲み込む』などの機能に障害のある方に対し、機能回復訓練な

どの支援を行います。

脳機能障害や事故、あるいは認知症などで言語障害を負った患者様に対し、言語機能の回

復訓練を提供する他、コミュニケーションボードなどを用いた代替手段の提案・提供を行います。また、摂食・嚥下障害に対するリハビリの実施や、患者様ひとり一人の現在の状態にあった食事形態の調整、安全な食べ方の指導・援助を行います。

『食べること』は、単に栄養を摂取するだけでなく、生きる活力、生きる喜びにも深くつながっています。美味しく食べられるようになることで、体力の回復もスピードアップし、リハビリを通じた筋肉や身体機能回復も可能になります。

◆リハビリテーションセンターの新入職員を紹介します



城間さつき - 理学療法士

県内最大規模の急性期病院で、多くの経験を積みたいと、当院に入職しました。センターは、病棟の多職種の方々と相談しやすく働きやすい、雰囲気の良い職場です。

理学療法士になろうと思ったきっかけは、私自身がけがをした経験があり、その際に理学療法士という仕事を知ったこと。今、理学療法士として思うのは、患者様がリハビリを、きつながらも楽しい頑張りたいたいと思っただけのように日々、努力を続けること。先日のこと、『あなたに会えて良かった』と患者様にいっただけで、とてもうれしく思っています。



比嘉 静也 - 理学療法士

当院に入職したのは、急性期病院であることと、JCIを取得しており海外の患者様も安心して受診できる病院だということ。この環境なら、早期リハビリの技術を身につけより高く向上できるのではないかと思ったからです。当院は、急性期病院ということで、患者様も多く仕事量も多いですが、分からないことがあっても先輩方に安心して聞くことが出来るので楽しくて働きやすいです。

『患者様から信頼される医療従事者』として日々向上心を持って働いており、患者様からの『信頼していますよ』の言葉が、励みになっています。



中村 麗奈 - 作業療法士

当院に入職したのは、急性期の最先端医療を学べると思ったからです。センターでの勤務は、多忙なうえ覚えることも多く、毎日ついていくのに必死ですが、先輩方や患者様があたたかく

見守ってくださると、学習環境が整っていることで、とてもやりがいがあります。

作業療法士になろうと思ったのは、病気やケガで苦しんでいる方の支えになれること、身体機能の維持回復とともに、精神的な支援ができることに魅力を感じたから。患者様から『あんたが来てくれると安心するさあ』との言葉をいただいたことがうれしいです。



名嘉座幸輔 - 作業療法士

急性期におけるリスク管理や治療・リハビリの流れを学びたいと、当院に入職しました。センターでの勤務は、先輩方や同期の仲間もみな明るく楽しい雰囲気の職場です。

作業療法士になりたいと思ったきっかけは、高校生の時に、リハビリテーションについての講話を聴く機会があったことです。

入職して間もないですが、患者様が退院される際に『これで無事退院できます。ありがとうございます』とおっしゃっていただけたことをうれしく思っています。不慣れなところばかりですが、精一杯頑張ります。



上西 幸穂 - 作業療法士

最先端の医療機関で急性期医療に関われることが魅力で入職しました。当院は、患者様第一という基本的な考え方のもと、チーム医療を大切にしており、コミュニケーションもよく、働き

やすい職場だと思います。作業療法士になろうと思ったのは、辛く大変な思いをされている患者様に身体面だけでなく精神面でも貢献できる仕事だから。まだ入りたてですが、退院される患者様から『あなたが担当してくれたから、リハビリが楽しかったよ』と言っただけでうれしいです。お辛い時もあると思いますが、一緒に乗り越えていきましょうね。

リハビリテーションセンターの公式フェイスブックページです！ぜひご覧ください！

